

信仰の山を仰ぎ見ながらの宴会山スキー

## 東北 月山行人小屋山スキー

坂村

【日時】 2009年4月11日(土)～12日(日)

【メンバー】L鈴木、手嶋、伊藤、坂村

《4月11日》

信仰の山で知られる月山。この山が特別だと改めて思ったのは、当然のように高くそびえる雪の壁を見たときだった。今シーズンはどこに行っても雪が少なく、雪の壁などほとんど拝めなかった。志津温泉を過ぎ、カーブをひとつ超えるたびに景色が白く変わってゆく。車のラジオが言っている。積雪は今日現在9メートル、例年とほとんど変わらないと。山スキーヤーにとってもここは特別な山だ。



山頂で佐藤(耕)Pと

9:00 月山スキー場駐車場に到着。既に車がたくさん停まっている。多くの人がデイクックを背負っている。私たちの荷物がひととき大きく感じた。身支度を整え、スキー場リフト乗り場に向かう。リフト乗り場までスキーを担ぎながら雪の上を少々登る。私は山中泊での山スキーは初めてだったこともあり、背中の重みとスキーを背負った肩の重みで早くもへろへろになった。先が思いやられる…。

リフト乗り場で最後のお手洗い(ここから先は隠れる場所が一切ない)を済ませ、リフトに乗り込む。いつものようにザックを体から外して椅子の横に置いたが、今回はザックの重さが違うということ計算していなかった。下りるときにどうしようかと迷ったが、えいやーと担いで滑り降りた。後で鈴木さんに危ないからザックを体から離さないほうが良いとの指導が入った。見ていて危なっかしかったのだろう。



荷物を置いての楽しい滑り

シールを付けて10:30 出発。先頭を伊藤さんが歩く。歩き始めるととたんにザックの重みが腰にずっしりときた。こんなので長くは歩けそうにない。少し時間をもってベルトの調整をしたら大分楽になった。ゆるゆると歩いてカールをトラバースし、月山と姥ヶ岳を結ぶ稜線上で休憩を取ろうとしたとき、北東ルートを予定している佐藤(耕)さんパーティが追いついてきた。

休憩後、月山山頂に向けて登りらしい登りになる。佐藤(耕)さんパーティはあっという間に登って行った。雪がぐずぐずでシールが利かないところがあり少々歩きにくい。途中雪が切れていたためスキーを外す場面もあった。約1時間で月山山頂に到着。山頂では佐藤(耕)さんパーティが待っていてくれた。景色とお喋りを堪能し、それぞれの行く手に別れた。

13:00 滑走開始。広大な一枚バーン。青い空。背中のザックは重いけど(♪泳げタイヤキくんふう♪)。レロレロに波打っている雪面に引っかかって転んでもなんのその。適度な斜度で春スキーの楽しさを存分に味わった。あっという間に清川行人小屋が見えた。行人小屋脇の斜面はとても美味しそうに見えた。ほどよく急でほどよい長さ。全ての荷物をデポってスキーを背負って登り、一人ずつ滑った。手嶋さんは小さく小さく刻みながら飛ぶように滑る。滑り終えた後はあまりの楽しさで口が勝手に笑い始めた。



**のんびり外宴会**

15:40 清川行人小屋着。小屋には私たち以外誰もいない。すぐ目の前は雄大な斜面が広がっている。日もまだ高く暖かい…とくればとりあえず外で宴会。鈴木さんお手製のおつまみとビールで乾杯した。

《4月12日》

「夜中小屋の外に誰か来たよな」と鈴木さん。「夜中私の横をうろろしたり臉をツンツンした人がいました」と私。いやいや、二人とも寝ぼけたんですよ。



**清川行人小屋前にて**

8:10 清川行人小屋発。昨日最後に遊んだ斜面を見るとはつきりと4つのシュプールが浮かんでいる。自分の滑った跡を見る。どちらのターンが苦手かよく分かる。山頂までは2ピッチで登った。途中の休憩中、光と影のいたずらで向かい側の斜面に



煙が登っているように見えた。ただし心の清い人には見えないものらしい(伊藤さん・談)。

10:30 山頂付近到着。シールを外して滑走する。本日も快適一枚バーン。あっという間にカールの下に滑り降りた。そこからはグレンデに戻らず直接駐車場方面に回りこむ。途中大きな雪庇の下をトラバースした。崩れた跡がたくさんある。間隔を空けて通過した。

12:05 駐車場着。「道の駅にしかわ(水沢温泉)」で入浴後、山菜で有名な出羽屋で昼食。高い上に上品な量で満腹感なし。「今度の山菜山行ではタダでたらふく食べさせてあげますよ」と手嶋さん。楽しみにしてまーす！

【行程】 4/11月山スキー場リフト上(10:30)～月山山頂(13:00)～清川行人小屋(15:40)  
4/12清川行人小屋(8:10)～月山山頂(10:30)～ 月山スキー場駐車場(12:05)



【リーダーとしてのコメント】  
滑りはまったく問題ありません。  
荷物を背負っての滑りも大丈夫。  
あとは慣れの問題。無雪期に歩いてもう少し体力が付けば、次のシーズンはかなり楽しめます。

Photo: Suzuki